



社会福祉法人
岩根福祉会
久津間保育園
1月1日発行

明けましておめでとうございます。例年になく暖かな年末年始をご家族おそろいでお過ごしのことと思います。本年が皆様にとって素晴らしい1年でありますようにお祈りします。

さて、新しい年を迎え、保育園では各クラスともに最終段階に入ってきました。4月から比べて心身ともに成長し、上のクラスに進級、進学できる準備が整っているように思えます。しかし、月齢が低くなれば、子ども一人ひとりの発達には差があります。0歳児、1歳児は、なかでも月齢が低くなればなるほど、大人の助けを必要としますから特に子どもの育ちをまず把握することが大切です。今月は、「乳幼児の心の発達とアタッチメント」と題する東京大学大学院教育学研究科教授遠藤利彦先生の記事の一部を紹介します。 園長 平野弘和

子どもは容易に怖がる、不安がる存在であり、怖いときには、泣きながら身近な誰かにくっつくとうします。くっついて、もう大丈夫という安全感・安心感に浸ろうとする、それがアタッチメントです。ただ、少しここで強調しておきたいことは、確かにアタッチメントのもともとの言葉の意味はくっつきですが、スキンシップとは強調するところが違うということです。

「アタッチメントは重要です。子どもを長くしっかり抱っこしてあげることが大切です。」というふうに言われることも少なくありませんが、それはスキンシップのことです。アタッチメントという考え方は、皮膚と皮膚がぴったりとくっついていてという経験が重要であると強調する考え方ではありません。あくまでも子どもが怖くて不安なとき、感情が崩れたときに、大人がそれを共感的に受け止めて、その崩れた感情を元通りに直してあげること、そして安心感を与えることが大切だと強調する考え方です。乳児の段階では、子どもが怖くて不安がっているときには抱っこしてあげることが一番効果的です。しかし、子どもたちが3歳、4歳、5歳、小学生、中学生と、どんどん年齢が上がっていくと、抱っこという方法は使わなくても良くなるはずで、離れたところからにっこりと笑ってあげる、声掛けをしてあげる、あるいは温かな目で見ておいてあげる、それだけでも子どもは「大丈夫」という安心感に浸れるはずで、

どういう方法であれ、ちゃんと安心感を与えてあげること。子ども視点から言うと、ちゃんと安心感に浸っていただけることが、健康な子どもの心の発達、あるいは体の発達にとても重要になります。その点を強調するアタッチメントの考え方を、しっかりと頭の中に置いておいていただきたいと思います。 園長 平野 弘和



ゆり組で年越しうどんを作りました。手でこねてから、足で踏み、コシのある美味しいうどんが出来ました！



ゆり組とちゅうりっぷ組で正月飾りを買に行きました。「どれにする？」と、みんなで相談をしながら選びました。それぞれのクラス前に飾りました。



門松を作って頂いた、請西にお住まいの泉水さんご夫妻です。

《1月の行事予定》

5日(金) クラスだより配布	22日(月) 交通安全教室(4,5歳児)
16日(火) おはなし会(3,4,5歳児)	31日(水) 園だより、給食だより配布
17日(水) 避難訓練、職員会議	

*5日に延長保育料の集金袋を配布します。10日までにお持ちください。土曜日は集金致しません。また、お釣りのないようお願いします。

*22日(月)の交通安全教室(4,5歳児)は、吾妻の交通公園で行います。バスに乗って行くので、9時20分までに登園して下さい。